



平成26年2月に初めて実施した「水前寺こいあかり」。出水小学校の児童が描いたカップの灯りが水前寺成趣園を彩った



第二町内の地蔵まつり。子どもたちや保護者を巻き込んで、地域につなげていく行事のひとつ



校区の運動会には、日頃地域との関わりが少ない若い層も集まり、競技を楽しむ



校区のカルタづくりでは、校区運動会でもブースを作り、住民から案を集めた

大切です。また、若い人たちに地域に関わって貰わなくてはなりません」。そこで出水校区ではまず、「子どもグループのアシストをするお母さんを各町内から募集し、「出水子どもネットワーク」として組織。「子ども達が心身ともに健やかに成長していくための支援を行うこ

と」や「子ども達が安全で安心して暮らせるよう見守り体制の充実を図ること」を目的に、世代間交流も楽しめるイベントなどを実施しています。メンバーは、さまざまな人たちとの出会いを楽しみながら、「まちづくり」に参加することになりました。お母さんたちのパワーと横のつながりは、校区の活力を取り戻そうとしています。

カルタや水前寺成趣園が新たな賑わいを生む

「出水 子どもネットワーク」を中心に、今取り組んでいるのが、出水校区オリジナルのカルタづくりです。「中央区で取り組んでいるカルタづくりに手をあげました。出水校区に来てまだ日の浅い人たちに、校区のことをよく知ってもらおう近道はないか、と考えて、これだ、と思つて。出水校区にはたくさんさんの文化遺産や史跡があります。そんな校区の史跡を織り込んだカルタをつくる

ことで、出水校区に愛着をもってもらえるのではないかと思っています」。吉田さんたちの思いがスタートし、平成25年から読み札の作成に取りかかり、平成26年には絵札作成とカルタの完成へと具体化しつつあります。吉田さんは「まちづくりの基本は、そこに住む人たちが集い楽しむことで、地域に愛着を持ち、お互いに支え合うこと。地域の人たちがお互いのことを知り、世代に関係なく支え合う関係を築くことになり、地域の活力につながる」と言います。そんな思いは校区内の行事にもあらわれ、住民に活力をもたらすきっかけとなっています。お地藏さん、水神さんも地域の人たちによって大切に守られてきました。毎年8月に行われる「水神まつり」や「地藏祭」は、祭り自体を楽しむと共に、地域の歴史を学ぶこともできる行事です。秋の出水校区大運動会など、スポーツイベントも盛んです。出水校区体育協会の原口貞信会長は、「子どもからお年寄りまで、

みんなが気軽に参加できることを目指しています。子どもたちも参加できるボウリング大会やミニバレー大会などが人気です。運動会も、年代間の競技を取り入れて、楽しく参加してもらっています」と話します。

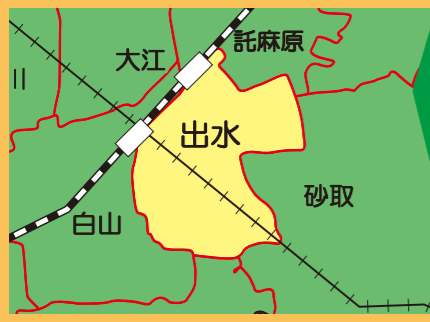
出水校区に隣接した水前寺成趣園を起爆剤として取り組む「まちづくり」活動も大きな輪となって広がっています。砂取校区と一緒に取り組む「水前寺活性化プロジェクト」もその一つ。水前寺参道でのイベント開催を始め、校区の枠を超えた活動で、商店街を中心に活力が生まれています。また、今年



出水校区自治協議会の吉田健会長

出水校区 (平成25年4月現在)

人口計: 8,717人
世帯数: 4,531世帯
町内自治会数: 11



4月には、砂取校区などと共に「水前寺まつり」を盛り上げます。「水前寺成趣園踊り」の披露や、出水神社の協力で地元商店40軒が店頭で湧水を無料提供する試みなど、水前寺らしさをアピールするイベントを企画しています。「子どもからお年寄りまで、ここ出水校区に住んで本当によかった、楽しいと言ってもらえるのが夢。カルタづくりやさまざまな行事は、その第一歩です」と語る吉田さん。地域を楽しみ、大切に思う気持ちが広がり、地域の元気につながっているようです。